

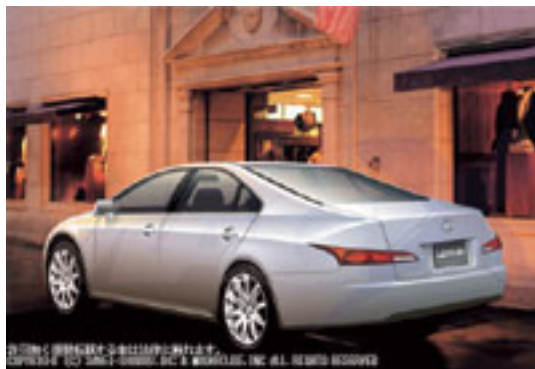
Scoop

2005年4月

レクサスES

トヨタ

GS、ISに続く レクサス次の一手 ES（ウィンダム後継車）06年3月生産開始



[↑ zoom](#)

ソリッド感にあふれ、アメリカン・テイストたっぷりのリアビューが印象深いレクサスES。ボディサイドのプレスラインがコンビランプへと続いているのはグランディス似!?

現行モデル



[↑ zoom](#)

発売前に商品のイメージや魅力の一部を小出しにして他社製品にユーザーがなびかないようにする、いわゆるティーザー活動に余念がないレクサス。アリスト後継車のGSを発売より2年も前に披露したのを皮切りに、アルテッツァ後継車IS、そしてRX（ハリアー）ハイブリッドも国内デビューの前に海外で披露してきた。「もうGSもISも見飽きたよ」というキミのために、レクサスが密かに用意している次の秘策を暴き出そう。

これまで、レクサスを出店する系列ディーラーの社長たちにも一切公表されてこなかった隠しダマ。それがウィンダム後継車のESだ。

ウィンダムは側突安全性や静粛性の向上を狙い、現行モデルからボディ形状がサッシュ付きドア採用のセダンに変更された。新型モデルでは、外

観がますますアメリカナイズされるのは下に再現したとおり。まるでクーペを想わせるような流麗なCピラーとソリッド感たっぷりのリアデッキには、現行モデルの面影など全くない。また、ボディサイドを貫く湾曲したキャラクターラインにも注目。後ろ下がりのラインはコンビランプへとつながり、有機的なデザインが作り出される。

プラットフォーム一新にともない、搭載エンジンも新世代V6のGR型にバトンタッチする公算が高い。その中でも2GR型3.5リットルの起用が有力で、グレードによっては3GR型3リットルや4GR型2.5リットルとなる可能性もある。

開発スケジュールは別表に示したように、5月11日から性能確認車の組み付けが始まり、追ってテストに用いられる。6月30日には細かい仕様が確定し、8月27日には設計変更（業界では俗に“セッペン”と言われている）が締め切られる。以後、大幅な“セッペン”は認められなくなる。確定した仕様に基づき、11月7日から1次試作の製作がスタート。続いて06年1月16日から量産試作が組み付けられて最終調整が図られ、同3月7日から生産が始まる。このスケジュールを見る限り、世界初公開の場には06年1月のデトロイトショーが選ばれると考えて間違いないだろう。

若くして成功したエリートたちをターゲットユーザーとして開発されたウィンドムは、次のFMCで4代目を数える。初代はトヨタの開発陣ですら予想しなかったほどヒットしたが、2代目以降はセダン低迷のあおりを受けて国内では低迷が続いている。そんな状況に見切りをつけてか、スクープした新型モデルは北米専売車にシフトする可能性も浮上している。カローラ店の旗艦車種として君臨してきた歴史にピリオドが打たれてしまうのか、さらなる調査が必要だ。

■レクサスESの開発スケジュール（編集部予想）



外観はほとんど変わらない？ ソアラ改めレクサスSC捕獲

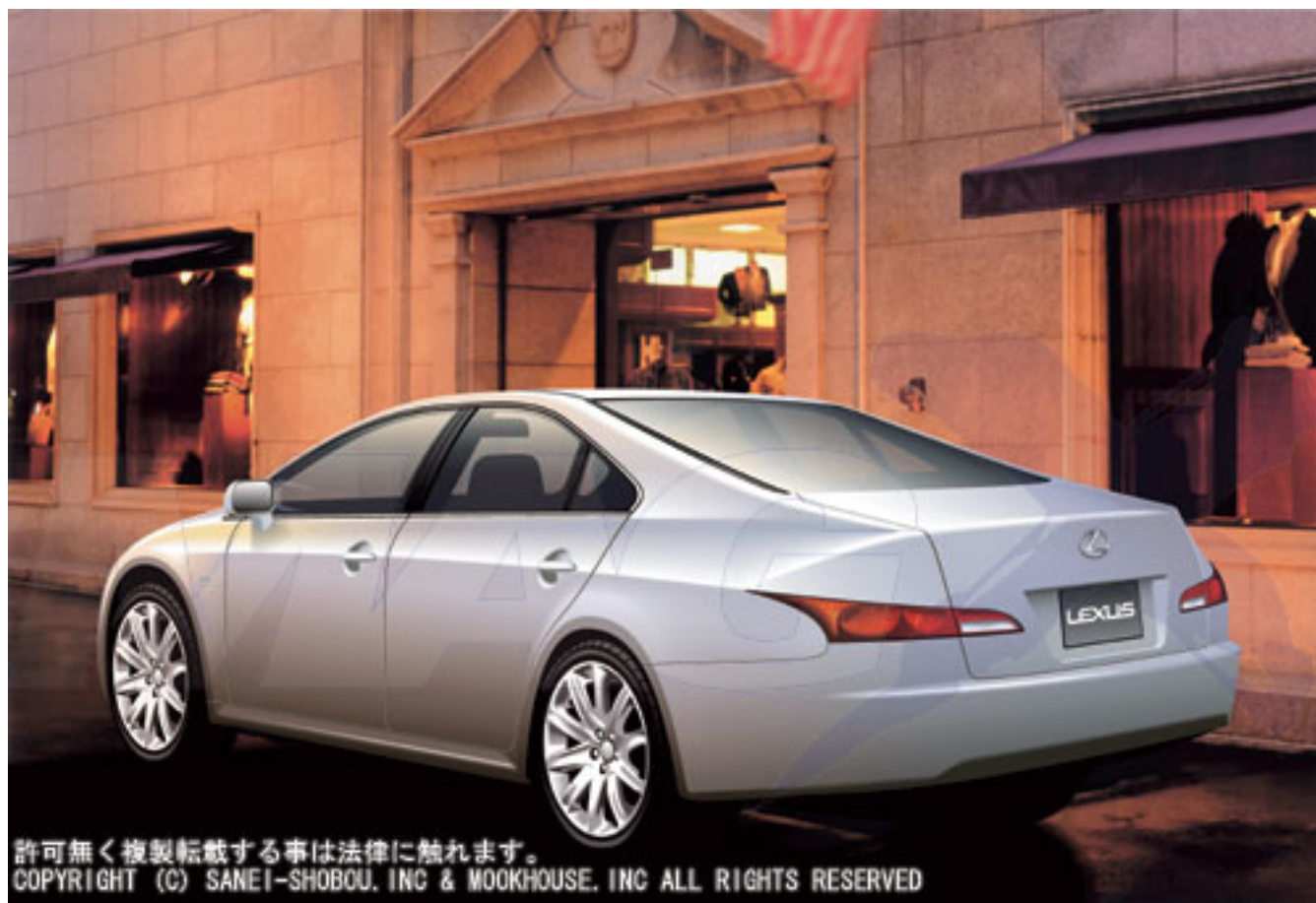


●現行モデル

[↑ zoom](#)

スッピン姿で現れたレクサスSC。
バンパー下方のエアインテークに横ルーバーが追加されている。

国内でレクサス・チャンネルが始動するのに合わせて8月にMCが行われ、新たにSC430を名乗るソアラ。MCでは外観が大幅に変わるとのウワサもあったが、スクープ班が捕らえたテストカーを見る限り、違いが見られるのはバンパー下方のエアインテークのみ。むしろ6速ATやプリクラッシュ・セーフティ採用といった、見えない部分での進化のほうが話題を呼びそうだ。



許可無く複製転載する事は法律に触れます。
COPYRIGHT (C) SANEI-SHOBOU, INC & MOOKHOUSE, INC ALL RIGHTS RESERVED





●現行モデル